

令和5年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ヤマムラ	代表者	竹谷 陽子	法人・事業所の特徴	「すべてにありがとう。」を合言葉に、利用者様に寄り添い、落ち着いたきめ細かなサービスを提供しています。 カンファレンス、ミーティングをこまめに行い、利用者様のケアを見直し、安心できる質の高い介護を行っています。
事業所名	小規模多機能ホーム おひさま	管理者	竹谷 裕		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	人	1人	1人	人	3人	人	8人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	○出来ていない部分に関しては皆で共有を図り、改善策を行動に移す。	○家族からの送迎時の情報収集については、連絡ノートをつル活用して、情報をスタッフ間で共有することが大事。そのために家族との会話を多くすることが必要である。 ○スタッフ全員が改善計画を分析し、検討されて、よりよい介護施設を目指されていることが分かる。	○改善計画について、スタッフ全員が自覚反省はされているけれど実行は難しいことと思う。 ○事業所内だけでなく、個人記録や連絡ノートを活用して、利用者の家庭での生活を把握しておくことはとても大事なことと思う。	○事業所自己評価に記載の改善計画を具体的にわかりやすく項目を挙げ、職員間で共有し達成できるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	○事業所のしつらえについては毎年度、運営推進会議委員の高い評価を頂いており、今年度も事業所を訪れるすべての人にとって居心地がよく、安心安全で清潔な事業所作りを行う。	○事業所は、内外とも環境がとても良いと思います。 ○花、写真や絵画等が飾っており、居心地の良い場所となっている。 ○清潔にされており、どなたでも良い印象を持たれると思います。	○しつらえ、環境、居心地、現状のまま安心安全に続けていかれることを望みます。	○事業所のしつらえについては毎年度、運営推進会議委員の高い評価を頂いており、今年度も運営推進会議委員の方の期待に背かぬよう、居心地がよく、安心安全で清潔な事業所作りを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	○新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことから、感染防止に留意しながら地域のサロン活動に積極的に参加したり、地域行事への参加を図っていく。 また、ボランティアの受け入れも従前どおりとしていく。	○校区の運動会、神社の祭り等に積極的に参加され、地域のサロン活動にも参加されている。送迎途中の挨拶もちゃんとされる。 ○代表をはじめ他の職員の方も好印象を感じます。	○地域との交流、こども園児やボランティアの方々の受け入れ等、地域と共にある事業所と感じています。 ○コロナ禍でいろいろ制約があり出来ないことが多かったが、少し落ち着いてきたので	○例年通り、運動会、神社の祭り、サロン活動、老人会等に積極的に参加し、地域との交流を図る。またその折に「おひさま」を知ってもらうためのPRを行う。

		○事業所のことをもっと知ってもらったら良いと思う。	事業所と地域の方々との交流を図ったらどうか。利用者は高齢者が多いので、事業所内で地域の人と一緒にできる行事を企画したらどうか。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	○ご利用者の状況に応じてその地域の民生委員等や近隣住民とも連携を図っていく。 ○できる限り地域交流にご利用者と一緒に参加する。地域の会議等にできれば参加し PR させて頂く。	○近所の心配な方の情報を運営推進会議の中で収集されている。 ○コロナ等感染症の心配もあり利用者のイベントへの参加は出来ていない。 ○地域の行事やイベントは日曜開催が多く利用者の参加が難しいと思う。 ○可能な範囲で地域の方との交流や外出対応がされており感心します。	○事業所への問い合わせはあるようだが、老人会、サロン活動参加の時に、「おひさま」の PR や心配事の相談を受けたりすれば「おひさま」への親しみ深まると思う。 ○各専門機関や事業所と連携を図られ対応されており、それが利用者増につながれば良いと思います。	○コロナ等感染症の感染状況を見ながら、地域とのかかわり特に地域行事の参加・散歩やドライブなど、ご利用者様と共に地域に出向く機会を設ける。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	○運営推進会議を通じて、コミュニティや地域情報を頂けるよう努めていく。 ○ご家族や地域住民の参加を呼びかけ、地域課題や目標を共有していく。	○運営推進会議で事業の取り組みをわかりやすく説明され、委員の方の知識にもなっていると思われます。 ○季節行事や、勉強会など活動内容も工夫され、楽しく実施されている印象です。 ○地域での心配な人たちの情報に民生委員さんと一緒になり取り組んでおられます。	○事業所への問い合わせはあるようですが、老人会、サロン活動参加の時に、「おひさま」の PR や心配事の相談を受けたりすれば「おひさま」への親しみ深まると思う。 ○各専門機関や事業所と連携を図られ対応されており、それが利用者増につながれば良いと思います。	○運営推進会議の重要性に鑑み、利用者の家族や地域住民の代表者にサービスの内容を明らかにしてサービスの質を確保し地域との連携を図る。 ○例年通り、運営推進会議の委員の皆様から率直な意見を頂き、サービスの向上を図る。 ○運営推進会議の委員の皆様と一緒に介護について勉強する。

F. 事業所の 防災・災害 対策	○6年度4月から義務化されるBCP（災害）計画を策定し、この計画に基づき研修・訓練を実施する。 ○前年度に続き、災害時の緊急対応のために、地域の消防団・自治会と綿密に連携し協力体制を構築する。 ○おひさまの建物が平屋のため、洪水時の避難場所の確保が必要であり、隣接の鳳鳴こども園を避難場所とした。今後避難場所までの避難経路を移動しながら確認する ○避難訓練には、運営推進会議の参加者やご家族にも参加を呼びかけ、意見交換をする。	○洪水等の避難場所を隣接の鳳鳴こども園と確立されている。 ○地域の消防団、自治会と協力体制を構築されている。 ○事業所の防災計画は立案されていることは承知していますが、実行されるためには地域の協力の大切と思います。 ○防災計画については対策されており、地域との連携も図られていますので地域の方にとっても頼りになると思います。	○改善計画に記されている通り、災害時の緊急対応のため、ご家族、運営推進会議の委員の方、地域の消防団、自治会との連携等具体的な協力体制を承知しておくことが必要と思う。また訓練も必要と思う。	○6年度4月から義務化されたBCP（災害）計画に基づき研修訓練を実施する。 ○前年度に続き、災害時の緊急対応のために、地域の消防団・自治会と綿密に連携し協力体制を構築する。 ○おひさまの建物が平屋のため、洪水時の避難場所の確保が必要であり、隣接の鳳鳴こども園を避難場所とした。今後避難場所までの避難経路を確認する。 ○避難訓練には、運営推進会議の参加者やご家族にも参加を呼びかけ、意見交換をする。
---------------------------------	---	--	--	--